

令和5年8月1日 環境生活委員会 開催状況

開催年月日	令和5年8月1日(火)		
質問者	日本共産党	真下	紀子 委員
答弁者	アイヌ政策監	相田	俊一
	アイヌ政策推進局長	高橋	奉己
	アイヌ政策課長	鈴木	昭弘
	象徴空間担当課長	高石	浩子
	文化振興課長	越田	習司

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 アイヌの歴史と文化の継承について</p> <p>私はアイヌの歴史と文化の継承について質問させていただきます。2021年に、「北海道・北東北の縄文遺跡群」がユネスコの世界遺産に登録され、北海道博物館第9回特別展として、「北の縄文世界と国宝」が、10月1日まで開催されておりまして、私も開会式に参加をさせていただきました。その時に大変な感銘を受けて、それで触発をされて今回の質問につながったわけです。国宝、国指定重要文化財も一堂に公開をされておりまして、縄文北の魅力伝える見ごたえある展示となっていると感じました。</p> <p>歴史をさかのぼりますと、この縄文から一部擦文時代、7世紀後半から13世紀を経て中世アイヌの時代へと移行したと考えられておりまして、アイヌの歴史は縄文時代からアイヌ文化期まで、緩やかにかつ連続的に移行していったとされておりまして、グラデーションがかかったような状態ということですね。また、アイヌは縄文人に近いとされておりまして、人類学者の埴原和郎氏によりまして、1991年に日本人の集団史に関する二重構造モデルが発表されておりまして、アイヌと琉球人に縄文人のDNAが色濃く残っていると言われております。</p> <p>(一) アイヌ民族と縄文人との関係について</p> <p>アイヌは形質的・遺伝的に縄文人の特徴を色濃く受け継いでいると言われていたわけですが、1万6千年以前にさかのぼる縄文人と北海道の先住民族アイヌとの関係について、まず伺います。</p> <p>先ほども申し上げたとおり、グラデーションがかかったような状態で、まだなかなか解明されていない中で諸説あるということだと思っておりますが、これをやはり解明していけるよう期待するところでございます。</p> <p>(二) アイヌ語のルーツについて</p> <p>縄文人の言葉というのはなかなか知ることはいないとされておりまして、アイヌは独自の文化と言語を持つ、このことは、はっきりしているわけですね。アイヌ語のルーツについてはどう考察をされているのか。そのうえで、交易を中心とした、今ほどの答弁にもありましたけれども、文化的交流があったと、こういう答弁をされておりまして、さらに交易を中心とした狩猟採集を行っていたアイヌが、文字を持たずに、言語は口述で伝承されてきたわけですが、いつ頃からこの言語があったとされているのでしょうか。</p>	<p>(文化振興課長)</p> <p>アイヌ民族と縄文人との関係についてでございますが、縄文文化は約1万5千年前から2千4百年前に北海道をはじめ、日本列島に広く展開した文化である一方、伝統的なアイヌ文化に特徴的とされる生活様式や儀礼などが考古学上、確認出来るいわゆる「アイヌ文化期」は、12～13世紀頃からであり、両者にはおよそ2千年の時間差が存在しております。その間、北海道に居住している人々と、大陸から北海道に移住してきた北方民族との間に文化的交流があったことも明らかとなっているところでございます。</p> <p>北海道の縄文文化とアイヌ文化は、同じ風土の中で、自然と調和しながら成立・展開したものであり、その精神性に共通する要素もあると考えられておりますが、アイヌ文化の成り立ちにつきましてはいろいろと議論があるところでございます。</p> <p>(象徴空間担当課長)</p> <p>アイヌ語のルーツについてでございますが、言語のルーツは、様々な説も見られるが、日本言語学会等の言語学の専門学会におきましては、世界の多くの言語につきましてはいわゆるルーツを解明することが容易ではないとしております。</p> <p>アイヌ語につきましても、例えば、古い記録をたどることによって「遅くともこの頃には、現代に近い言葉として話されていたと推測できる」ことまでは確認できるものの、言語のルーツをたどることは困難とされております。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>言語のルーツをたどることは非常に困難だということですが、現代に近い言葉として話されていたと推測できるというのがアイヌ語の特徴なんですよね。そうしますとやはり、口述伝承されてきたアイヌ語が、記憶から記録として残るとということが非常に重要な問題だというふうに思います。そしてその言葉をどうやって探り当てて、次に伝えていくのかということがアイヌ語の伝承にとっては非常に重要な課題だというふうに思います。</p> <p>(三) アイヌ語の特徴について 言語のルーツを辿ることは、非常に困難だということなんですけれども、現代に近い言葉として話されていたと推測できると、これがアイヌ語の特徴なんです。そうしますと、口述伝承されてきたアイヌ語が記憶から記録として残るとということが非常に重要な問題だと思えます。その言葉をどうやって探り当てて、そして次に伝えていくのかということが、アイヌの語の伝承にとっては、非常に重要な課題だと思えます。アイヌ語は世界の中でも北海道のアイヌのみの孤立言語です。孤立言語がいくつあるのか調べてみましたら、根拠関係が辿れず、系統的に独立した言語は、9つあるそうです。その中で4つがアジアにありまして、アイヌ語、日本語、朝鮮語、それからサハリンの先住民族の語が孤立言語として残っているということが明らかにされていて、交易などで交流がありながら、どうしてそれぞれ孤立言語として残っているのか非常に不思議で興味を持つところですが、アイヌ語の場合その特徴は抱合語であることなどが指摘されています。それ以外にもたくさん特徴があるが、どのような特徴をもつのか伺います。</p> <p>(四) アイヌ語の話者について 時代によって変わっていくものですから、色々あると思うんですけど、やはり記録をしていくことが非常に重要なのと、アイヌ語を話せる方々が非常に少なくなっていて、世界的にもアイヌ語が極めて希少な存在であることが明らかになっています。そのアイヌ語の伝承について、アイヌ語で会話のできる話者の減少に懸念が示されています。2021年第204国会の参議院決算員会で紙智子参議院議員がとりあげている訳ですけども、道は、アイヌ語を話せる話者についてどのように把握されていますか。</p> <p>(五) アイヌ語の継承の取組について 今までの生活実態調査の報告の中でも、アイヌの方々が全員が調査に協力しているわけではない。その協力している方の数も減っているということが明らかにされたわけですけども、そうした中でも、本当にわずかな方しか話さないような状況が今、生まれているということですね。これには非常に危機感を持つべきだと考えています。これまでアイヌ語の継承にどのように取り組んできたのか伺います。</p>	<p>(象徴空間担当課長) アイヌ語の特徴についてであります。委員ご指摘の「抱合」につきましては、ひとつの動詞に名詞などを取りこんで、ひとつの複合動詞が作られるというものでございます。 こうした「抱合」の例は、世界の他の言語にも見られる特徴でありまして、アイヌ語が特殊な言語というわけではないものの、日本語とは異なった特徴のある、孤立言語の一つとされております。</p> <p>(アイヌ政策課長) アイヌ語の話者の把握についてでございますが、道では、北海道アイヌ生活実態調査の中で「アイヌ語をどの程度できますか」との設問に対し、「会話ができる」、「少し会話ができる」などの選択肢の中から回答いただき、把握しているところでございます。 前回の平成29年調査では、ご回答いただいた方のうち「会話ができる」とされた方が、0.7パーセント、「少し会話ができる」が、3.4パーセントとなっております。 なお、今回の調査につきましても、前回調査同様、「アイヌ語をどのくらいできますか」と質問することとしております。</p> <p>(象徴空間担当課長) アイヌ語の継承に向けた取組についてでございますが、道では、国やアイヌ民族文化財団等と連携し、アイヌの人たちのアイデンティティーの中核をなすアイヌ語を守り、伝えていくため、アイヌ語の指導者の育成や習熟度に応じた講座の開催など、多彩な学習機会を確保し、アイヌ語を話せる担い手の育成に取り組むとともに入門教材の制作や、児童生徒向けの副教材の作成・無償配布などに取り組んできたところでございます。 また、国においては、令和2年7月に開業したウポポイ内で、アイヌ語を第一言語として施設や展示などへの表記や職員の愛称にアイヌ語を使用するとともに、アイヌ語体験プログラムの実施によりまして、アイヌ語に直接触れるだけでなく、アクセントや発音等を重点的に学習するなど、普及啓発に努めているところでございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(六) アイヌ語継承の取組の効果について 様々な取組が行われていることが承知しました。その取組の効果はどのようにになっているのか伺います。</p> <p>(七) 金成マツノートについて 様々な取組をやっている、ラジオ講座もしているということなんですけれども、見るだけでは伝わらないですよ、やはり話していかないと伝わらないということなんです。先ほども申し上げましたように、日本語との関係、アイヌ語との関係それがどうなのかということも理解できず、アイヌ語だけ聞いていても私たちが理解できない。</p> <p>そこで、実は没後100年になる知里幸恵の叔母にあたる故・金成マツが、金田一京助のユーカラ研究に協力するため、昭和3年から昭和22年までの間、92話のユーカラを174冊の大学ノートにローマ字で筆録したものが残っています。これは『金成マツノート』と呼ばれています。総ページ数1万2530ページ、総曲数は113曲に及び、北海道の文化財にも認定されておりまして、アイヌの日常生活や精神性を伝える重要な記録となっております。1978年から国の補助事業で、毎年報告書が刊行されておりまして、一時中断しそうになった時、事業の継続について文科省に要請をし、2006年4定では当時の高橋はるみ知事にこの事業の存続を求めて、2026年まで継続され、終了する見込みも明らかとなっております。この報告書というのは学術資料なものですから、大学等の高等教育機関及び関係地域の図書館や博物館等に送付されて、歴史的資料として、調査研究を行う専門家や学生によって活用されているということなんです。</p> <p>しかし、やはりこうしたものが残っていることが極めて幸運だと言わざるを得ないと思います。アイヌ政策局では、知里幸恵の翻訳や金成マツノートなど貴重な文化財の価値をどう評価しているのか伺っていきたいと思います。</p>	<p>(象徴空間担当課長) 取組の効果についてでございますが、アイヌ民族文化財団によりますと、習熟度別のアイヌ語講座の受講者数に関し、指導者育成コースにつきましては、令和2年度19人、3年度17人、4年度19人、上級者向けコースでは、2年度41人、3年度48人、4年度41人と、年度により多少の増減はあるものの、概ね横ばいで推移しております。</p> <p>一方、初級入門講座の受講者数は、延べ数で、令和2年度789人、3年度526人とやや落ち込みましたが、4年度は、1,071人と大幅に増加し、アイヌ文化への関心が、広がりをみせているものと考えているところでございます。</p> <p>また、アイヌ語を広く一般に普及させるため、ラジオ講座を放送し、アイヌ語を実際に耳で聞き、学習する機会を提供するとともに、アイヌ文化への理解促進に向け、例年、全国の公立小中学校の児童生徒を対象に、約130,000冊の副教材を配布しているほか、教師指導用といたしましても、37,000冊を配布しており、教育関係者から好評を得ているところでございます。</p> <p>(アイヌ政策推進局長) 金成マツノートなどの価値についてでございますが、このノートは、金田一京助氏のすすめにより、ユーカラの伝承者であった金成マツ氏が昭和3年から昭和22年の長きにわたって、ローマ字で筆録した92話のユーカラをノートにまとめたものでございます。</p> <p>また、金成マツ氏の姪であります知里幸恵氏は、口伝に語り継がれてきたユーカラの中から神謡13篇を選び、ローマ字で音を起して、それにわかりやすい日本語訳を付けた、「アイヌ神謡集」の著者として知られてございます。</p> <p>こうした執筆により、アイヌ口承文芸が後世に伝えられたところでありまして、アイヌ文化の伝承・保存に関する貴重な遺産であると認識をしております。</p>
<p>(八) 全道での展開について そういうことでありましたら、この文化財、貴重な遺産を活用すべきだと思っております。そして、口承で伝えられたものが、幸運にも記録されていて、更に翻訳もされているということであれば、これをアイヌ文化の伝承のために活用していくことは非常に重要なことだと考える訳です。</p> <p>アイヌ語にも方言がありまして、オホーツクや十勝、旭川・上川など住む地域で特性があると聞いています。道では、ウポポイをアイヌ文化発信の中核センターとして誘客促進に力を入れている訳ですが、全道各地には別々の歴史を持ったアイヌの人たちがいる訳</p>	<p>(アイヌ政策監) 今後のアイヌ文化の振興についてでございますが、アイヌの歴史や文化に対する理解を促進し、アイヌ文化の振興を図るためには、より多くの方々にウポポイへお越しいただくとともに、道内各地のアイヌ関連施設を訪れていただき、アイヌの人たちが、道内各地域で保存・伝承させてきた伝統的な衣装や舞踊、文様など、地域毎に特色のあるアイヌ文化の魅力に触れ、民族の多様性や深遠な精神性を感じていただくことが重要と考えてございます。</p> <p>このため、道では、国やアイヌ民族文化財団等と連携し、アイヌ文化の保存や伝承に取り組みますと</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>で、そのアイヌの歴史・文化に触れて、地方のアイヌ関連施設へも足を運んで関心を高めてもらうことが重要ではないかと考えますが、見解を伺います。</p> <p>北海道のアイヌの中でも、旭川、上川のアイヌは本当に違う歴史を持ってきているという風に聞いております。旭川市博物館の前館長だった瀬川拓郎さんが2冊の新書で、この旭川アイヌを含めて、アイヌのルーツ、言語のルーツなどを書いた著書を記していて、今回の質問の参考にさせていただいたんですが、ウポポイとまた違う展示が、日常生活の遺品ですとか、様々な交易の歴史ですとか、旭川市の博物館で所蔵してそれを展示し、分かりやすく皆さんに公開しているんですね。その他に、このほど日本最古の私設のアイヌ資料館を旭川に作っていた川村カ子ト記念館が新館オープンいたしました。川村カ子トは、皆さんご存じだと思いますが、宗谷本線や根室本線をはじめ、敷設困難と言われた本州の、当時内地と言われていたんですが、飯田線の天竜溪谷の測量を担当して、完成に貢献をした方です。鉄道施設の測量技師であったアイヌの川村カ子トと共にするアイヌの測量団がいなければ飯田線は出来なかったと言われるぐらい、鉄道の世界では非常に有名な方です。その川村カ子トの記念館が出来ています。それから、前にも話しましたが、登別には知里幸恵の銀のしずく記念館があって、ウポポイを中核センターとして、全道に様々なアイヌが生きっていて、今もその歴史と文化、そして言葉を伝承している人たちがいるということを是非多くの方に知っていただきたいと思っております。</p> <p>そのためにも、様々な資料を駆使してアイヌ政策局として一層の広報に努めていただきたいということをお願いして、私の質問を終わります。</p>	<p>ともに、ウポポイをはじめ、道内各エリアに根付くアイヌ文化をバーチャルで体験できる動画を作成し、配信するなど、PRに取り組んできたところでございます。</p> <p>道といたしましては、今後とも、様々な媒体や機会を活用し、アイヌ文化を積極的に発信いたしますとともに、地域への来訪意欲を喚起し、国内外の幅広い層の方々に、アイヌ文化を直接体験していただくことで、その魅力を感じていただけるよう、様々な取組を進め、アイヌ文化の一層の振興を図ってまいります。</p>